

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 熊本県立盲学校

1 実践テーマ	【 Ⅲ、Ⅴ 】
2 実施対象者	生徒 91 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	(1) 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高める。 (2) オリンピアン生き方を学ぶ。
5 取組内容	○パラリンピアンによる講演会及び実技指導 平成29年12月8日(金)に本校にて、道下美里氏(ブラインドマラソン：リオデジャネイロ大会銅メダル)の伴走者である堀内規生氏を迎え、講演会及び実技指導を行った。 (1) 講演 『まるで みえていくかのよう』という題で行われた講演では、まず堀内氏が伴走を始めた経緯、さらに堀内氏が伴走を務める道下美里氏が障害を負った経緯やランニングと出会い、パラリンピックリオデジャネイロ大会で銀メダルを獲得するに至るまでの経緯についてお話いただいた。 さらに、伴走者のルールや、実際に伴走をして行う際に考えていることについてお話いただいた。伴走者は、選手の目の代わりになるので、走っているときに視覚的な情報を与えることはできても、ランナーへの叱咤激励などを行うことはできないため、どうしたらランナーが気持ちよく走ってもらえるかを考えて伴走をしている、ということであった。また、道下氏が気持ちよく走れるように、道下氏の走るときの足音を録音し、走りのリズムを頭にたたきこんで、実際にリズムを合わせて走るようにした、とのことであった。 また、伴走者のつらい点として、給水がランナー優先でほとんど伴走者は摂ることができないことをあげていた。 しかし、走り終えたときに、道下氏から「まるでみえていくかのよ

	うに走ることができた」と言ってもらえたことが何よりも嬉しかった、という。 (2) 実技指導 実技指導では、生徒だけでなく先生方も加わり、伴走の仕方の指導を行っていただいた。
6 主な成果	講演内容からみた成果 生徒達の障害者に対する意識が変わった
7実践において工夫した点 (事業の特色)	児童・生徒を実際にサポートする実技体験を実施したことで、教員にとっても有意義な事業とすることができた。
8主な課題等	子どもたちの実情に応じた取り組みを実施したい。
9来年度以降の実施予定	実施予定。